

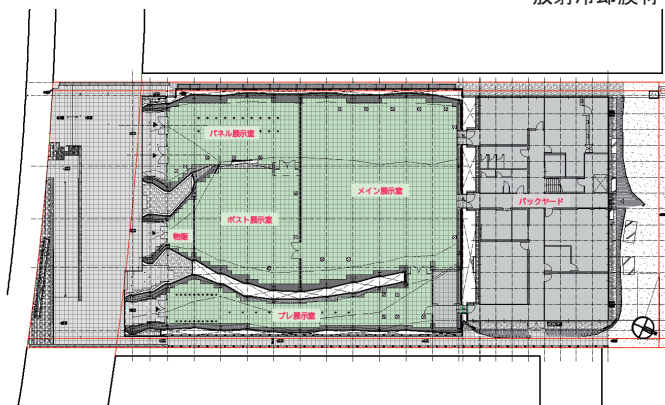
2025年日本国際博覧会 パビリオン・施設の紹介 (No.12)

ガスパビリオン おばけワンダーランド

【基本設計】株式会社 日建設計 【実施設計】日建設計・奥村組設計共同企業体



放射冷却膜材 SPACEC00L を用いたパビリオン外観 (©Yohei Sasakura)



1階平面図

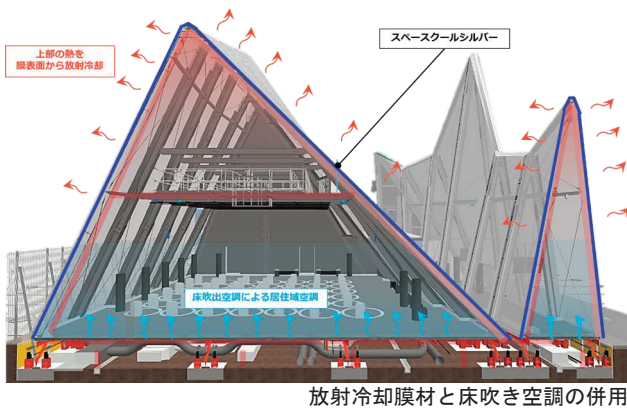
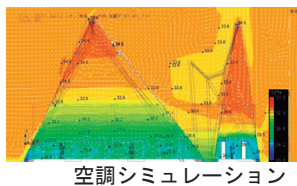


VR体験に奥行きを持たせる揺らぎのある内部空間 (©Yohei Sasakura)

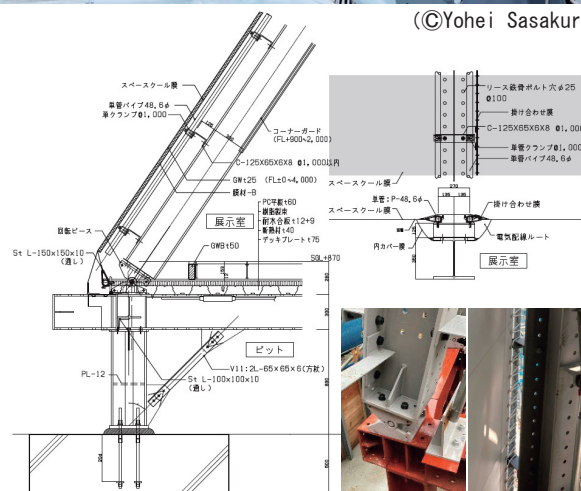


リング側から見た外観 (©Yohei Sasakura)

2025年日本国際博覧会 パビリオン・施設の紹介 (No.12)



(©Yohei Sasakura)



パビリオン足元部と柱と膜取り合い部のディテール



構造材に使用した各種リース材料

【パビリオンの概要】

ガスパビリオンは、JGA（(一社)日本ガス協会）が出展するパビリオンです。このパビリオンでは、環境貢献技術を丁寧に追求することで生まれる躍動感のあるパビリオン空間と、おぼけのキャラクターが案内するAR・VRアトラクションにより、メタネーションに代表される新たな環境貢献技術により「化ける未来」を発信します。

【設計概要】

ガスパビリオンの特徴的な外観をつくるシルバー色の外装材は大阪ガスが新規開発した放射冷却膜材 SPACECOOL® です。このパビリオンの三角形の断面形状は、膜材のもつ性能を活用し、内部の熱を建物上部から効率的に外部に放出するとともに、床吹き出し空調を併用し来館者の滞在領域のみを効果的に冷却することで、パビリオンな

らではの特徴的な大空間と省エネルギーを両立しています。また外装膜材を支持する構造材には、仮設山留用のリース鉄骨を採用しています。柱の足元すべてに回転ピースというリース部材を用いることで、各柱の傾きを変えて躍動感のある山脈のような外観形状をつくり、リース鋼材のボルト穴を利用した膜のディテールにより展示に要する様々な配線ルートを隠すことで、省材料でスッキリとした内部空間を実現しました。建設時・開催時・解体時のCO₂発生量を大幅に削減するとともに、半年後の解体時にはロープとボルトを外すことで、膜材・鋼材を簡単に取り外して再利用できるパビリオンとなっています。3Rを丁寧に追求することで生まれたパビリオン空間で、環境貢献技術がつくる「化ける未来」を感じ、「いのち輝く未来社会」への期待感を膨らませてください。

当施設の確認検査及び建築技術安全審査は、(一財)日本建築総合試験所が実施しました。